年中夢求・夢の実現
宜野湾中学校だより



令和８年度
VOL. 9

学校長：宮里 里加子　2.NOV 2026

行事を通して子供達に育む「生きる力」

秋が深まり、本校の一大イベントである「合唱コンクール」、そして学校の代表選手たちが挑んだ「中頭地区中学校駅伝競走大会」が無事に終了いたしました。保護者の皆様におかれましては、日頃からの温かいご理解とご支援、そして当日の心強い応援をいただき、心より感謝申し上げます。
一見すると、歌声を一つにする「合唱」と、タスキをつなぐ「駅伝」という全く異なる二つの行事ですが、子供たちが乗り越えてきた過程には大きな共通点があります。それは、「自分自身（の弱さ）と向き合うこと」、そして「多様な仲間と向き合い、絆を紡ぎ出すこと」です。

仲間と響き合い、協働する難しさと喜び







「月桃」の大合唱は聴く人の心に平和の大切さを訴える力がありました。

何事にも真剣に取り組める宜野湾中の伝統をこれからも繋いで行ってほしいものです。

クラス一丸となってつくりあげる合唱は、個々の熱量や思いの違い、意見の衝突など、一筋縄ではいかない葛藤の連続です。「どうすればもっと良くなるのか」「思いを一つにまとめるにはどうすべきか」子供たちは自分と異なる考えを持つ仲間を認め合い、歩み寄る難しさを身をもって体験しました。

ステージ上で生徒たちが見せた真剣な表情と歌声は、これまでどれだけ深く集団に関わることができたかの証そのものでした。ほとんどのクラス・生徒が「みんなのために自分に何ができるか」を考え、精一杯に表現してくれました。

練習から試行錯誤を重ねてきた子供達の姿に、教職員一同も胸を打たれ、「生徒たちの頑張りに自分たちも応えたい」という思いから、急遽スタート前に職員合唱でエールを送る運びとなりました。

ご家庭におかれましても、ぜひ本番で見せたお子様の姿と重ねながら、「集団の中でどんな役割を果たせたか」「仲間とどう関わり、協力できたか」という成長の過程に目を向け、子供たちの健闘を温かく振り返っていただければ幸いです。

自分の弱さを乗り越え、繋いだ一本のタスキと温かい絆



レース前のエンジン
「互いを励ます心」が自然にこの行動を生み出します。

夏休みの暑い時期から厳しい練習に取り組み始めた生徒をはじめ、自らの意思で参加し、継続してきた駅伝メンバーたち。走るということは、常に「妥協しそうになる自分」や「苦しさ」との戦いです。自分の弱さと正面から向き合い、汗を流し続けた日々は、子供たちの心と体を大きく成長させました。

特に今年のチームは、３年生が明るくチーム全体を引っ張り、素晴らしい雰囲気を作り出してくれました。練習で先にゴールした生徒が、後からゴールする仲間に最後の一人まで励ましの声をかけ続ける姿。練習終わりに全員でハイタッチを交わし、お互いの努力を称え合う姿。自分たちで互いを高め合う温かい空気感が、チームの大きな原動力となっていました。

本番、一本のタスキにそれぞれの思いを込め、仲間を信じて駆け抜けた姿には、過酷な練習を共に乗り越えたからこそ生まれた「本物の絆」が輝いていました。

行事を通して育まれた「未来へつながる力」

これらの行事を通して子供たちが得たものは、単なる「行事の成功」という結果だけではありません。

- ○主体性と継続し続ける強い心（自ら決めたことに向き合い、やり抜く力）
- ○他者理解と協働力（思いの違いを認め合い、互いを高め合う力）
- ○折れない心と自信（壁や自分の弱さを乗り越えたという経験）

行事を通して育まれる力は、これからの学校生活や将来の歩みにおいても大きな財産となります。今後とも、子供たちが互いに高め合い成長していけるよう、教職員一同、温かく見守り支援してまいります。